



 仙北市
議会だより **No. 17**
平成22年2月号

翔る



佐藤 峯夫 議長

仙北市民の皆さん 遅ればせながら新年のごあいさつを申し上げます。2010年の輝かしき新春を迎え皆様ご家族のご健勝とご多幸を心からお祈りします。

さて第8回定例議会の議会だよりは、昨年12月3日に開会され、18日に閉会となった12月定例会の報告です。どうしても年末年始をはさむためニュース性に欠ける嫌いがありますがご容赦ください。

議会広報委員が毎回、編集に工夫をこらして発行する議会だよりを今年もご愛顧のほどよろしくお願いたします。

寅年に翔る

仙北市議会
議長 佐藤 峯夫

72歳の誕生日を迎え、恥を知る議員になりたいと誓った。

「選挙」を意識する余り住民に迎合し、真実を伝えるべき勇気と使命を失っている自分に気付いたからである。それを教えてくれた人は、昨年11月20日市議研修会での北川正恭元三重県知事でした。

日本人がこんなに墮落して志を失い恥を知らなくなつた時代はかつてなかった。私の70年の人生

の中でも、今が人間の品性がどん底の時と思われ

る。そうした時代の今、「議会の力が問われる年」でもある。

議会に求められるのは提案されたものの内容を読み取り、修正する能力だと北川先生は説かれた。

同時に住民のありようも問われる。

「誰を議員に選ぶかは非常に大きい」ことを…。

今年も背伸びせず



虎は吠える！

真崎 寿浩

平成5年から議会にお世話になって以来、お付き合ひ頂いた寅年生まれの先輩議員の方々は、そ

ろつてバイタリティーにあふれた闊達な方々でした。

寅年生まれの人は「そんなもんかなア」と思いながら、4回目の年男を迎えた私が、今やるべきことは何かと考えるに、

世代的にも年齢的にもリーダーシップを発揮して地域を元氣付けて行く事と考えます。

今日までの、世代的な甘えを払拭し、経験を生かしながら多くの事を語り、そして受け入れ、議員としての心構えをしつかりと持ち、がんばりたいと思います。

節目の年をむかえ、「地域づくりの為の人づくり、人づくりの為の地域づくり」を基本に、「地域力は人間力、人間力は地域力」という事を再認識し、どんどん吠えて、声高らかに吠えていきたいと思ひます。



「寅い！」

浅利 則夫

昭和25年生まれという事で今年は5回目の年男を迎えることとなった。頭髮は白に近い胡麻色、物を読むにも書くにも老眼鏡が手放せなくなつて久しいが体力には自信あり。寅年に生まれたこと

にあやかり、万青年を貫き毎年新しく「トライ」する物を探す事を一年の始まりとしている。さて今年は何にトライしようか。

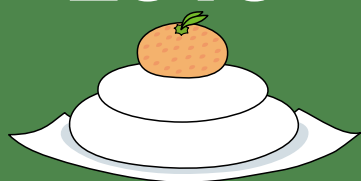
ここ旧松木内村地域は仙北市で最も高齢化の進んでいる地域。お年寄世帯では日常生活に必要な買い物も出来ない状況下にある人も多く、これにNPO活動で対策が出来ないものか？

松木内小学校と地域の人達が一緒に行っている田んぼアートを見物客が訪れるほどに大きくクツキリと田植えをするにはどう技を改良するのか、実った稲をどう利用していくのか？

秋田内陸線の経常損失額がこれ以上増えないように、内陸線がずつつと存続できるよう、お客がこの地域に訪れる四季折々のイベントが出来ないものか？

今年も背伸びせず地域の思いを一つでも形として表せる年としよう。

2010



寅年に



心、新たに

大石 温基

今年も新年早々雪との戦いからの始まりです。12年ごとに回ってくる寅年、12年前は子育ての最中で楽しさもありました。厳しさもあり、今振り返って見ると、よく育て上げることができたのだと思います。

今年も人生の中で大きな節目の還暦に当たり神代中学校第19期生の還暦を祝う会が行われます。何年、何十年ぶりに先生方や同期生に会えるのを楽しみにしています。

子供の頃60歳という年齢で年寄りという感じに見えました。今自分がその年になってます。子供達から見ると十分年寄りに見えると思いますが自分ではまだ若いつもりでいます。

今年も市議会議員の改選の年にもなります。



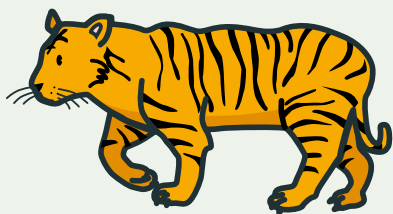
キャッチミー

小林 幸悦

仙北市も財政の問題、社会資本の整備、農林業の活性化等沢山の課題が山積みしています。住みよい仙北市、住みよい街づくりに努力して参りたいと思います。今年も皆さまの力添えを頂きながら新たに方向かって行きたいと思えます。

5回目を迎えた年男、還暦という老いを感じさせられる言葉が、とうとう来てしまったかと思おもあるが、私の場合、農業と自営業そして議員の仕事……。

サラリーマンの方々のような勤め人ではないので定年も無ければ第二の人生も無く、働けるうちは働いて余裕が出来た時にそれなりに楽しめれば良いと思っている。



大変な不況が続いていて、景気もそろそろ底をつくのではと思っただけに更に二番底があるとのことで不安が益々大きくなる。不況はなんとしてでも乗り越えなければならぬが、将来へ負担を大きくしてはならない。農業であれ、商工業であれ、観光産業であれ、全てにおいて、より良いカタチで次の世代へ受け渡すことが私たちの責任であり、そのための努力を怠ることは許されぬ。

今年もがんばります
議会広報特別委員会



委員長 沢田信男



副委員長 真崎寿浩



浦山敏雄



田口勝次



高久昭二



青柳宗五郎



浅利則夫



田口喜義



黒沢龍己

私たちが発行する議会だよりも残り一回となり、次の議会は新年度予算を審議する議会です。市議会議員選挙と重なりますががんばります。

議会が主役になりきれるか!

改革の心意気を基本条例に 仙北市議会

財政破綻した夕張市に隣接する北海道栗山町議会は、2006年5月に全国で初めて、議会の新しいルールを定めた。

その栗山町の議会基本条例が今、注目されている。地方分権改革で最も遅れているのが議会の改革と言われ、「議会不要論」さえ叫ばれる世の中である。改革なき地方議会は取り残されてしまう。

仙北市議会でも議会改革をめざして議会基本条例を任期最後の3月定例会において制定する運びである。

青柳、田口(喜)、黒沢、沢田、田口(勝)の5議員が議会改革について語った。

今や議会は脇役から主役なの!

(田口勝) 出席を予定された二人が見えませんが、私が座長代わりになって話し合いを進めますのでよろしくお願いします。

「平成12年に地方分権一括法が成立して、機関連任事務が廃止されて、自治体が行なう事務に議会の権限が及ぶことになった。このことが脇役の議会を主役に変えたといわれる。栗山町議会は新しいルールということ



をみても議会改革は何としても必要だと思ふ。

で基本条例を制定し議会活動を図っている。仙北市議会はどのような「カタチ」を臨むか

(沢田) 先般行なわれた市議会議員研修会で、

元三重県知事の北川先生が話していたが、議員のレベルを高めるには、基本条例制定が必要と話していた。仙北市議会の現状をみても議会改革は必要だと思ふ。



(青柳) 栗山町議会の基本条例制定のネライは、議員個々の資質の向上を図り、議会全体のレベルアップを基本条例に求めたように思う。仙北市も議会改革推進協議会を設置して取組んでいるが、取り組みはまだ不十分だと思う。

(田口喜) これまで我々は自治法および規則によつての運営だが、基本

条例に基づいた運営は全く違ってくる。

住民とともに歩む議会とか、議員同士が徹底した討論をするとか、執行機関と切磋琢磨する議会など、従来と比較にならない活動が求められる。全議員が果たしてそれに応えることができるか心配だ。

(黒沢) 今の議会のあり方はよいとは思えない。何をどうすれば結果的に改革になるかわからないが、根本から見直すこと

住民の鋭い批判に議会はどうか応える!

(田口勝) 「中央集権時代は首長が主役で、議会は蚊帳の外だった。先ほど説明したように地方分権時代になって本当は議会が主役のはずであるが、依然として主体性を発揮していないことが、住民の怒りや批判となっている。自治体の改革が進んでいるところほど、議会が主役になれないよ

うだが…」
(黒沢) 仙北市の門脇市長は12月議会で、今後行政報告会を開催すること

は議員個々の問題もあり、むずかしい。現段階で改革できる課題に先ず取組んで、段階的に、解消を図るべきと思う。まずは各会派のあり方だと思ふ。

(青柳) 会派としての基本が整っていない。問題点について、徹底した議論も尽くされないうまま、本会議の採決に臨んでいく。

同じ会派なのに賛成と反対が入り混じっている会派など全く論外だ。

を表明したが、仙北市は市長が変わってどんな行政改革を進めると思われる。このままでは、議会は今まで以上に蚊帳の外になる。

市当局以上の改革に努める必要がある。議会が住民の意思決定の場になるよう何らかのシステムが必要だと思ふ。

(田口喜) まず住民参加をどうするかである。例えば議会報告会は住民に対する義務とすべきで、請願・陳情など住民

からの要望意見等は、住民と意見交換をはかり、当局に政策提案するなどの取り組みが必要だ。また仙北市の財政が厳しいことから、議員定数をさらに削減するなど根本を変える必要があるのではないか。

(沢田) 議長や運営委員長あるいは、各常任委員長の議事の運び方で、議会改革は十分果たせると思う。

今までの議会は単に議決するだけで、予算や条例などの修正など議会からの提案は全くといっていいほどない。「議会不

要論」に対応するには、議会の存在価値を示さなければならぬと思う。第一歩として、議会の人事から始める必要がある。

(青柳) 議会はこうあるべきという目標がまず必要と思う。その中でも議員同士が自由闊達な議論ができるような議事の運営が必要だ。通告しなれば発言できないとか、質疑は3回までとか、本会議では十分な議論が尽くされない。もっと時間をかけて議論できるような改革すべきだと思う。

市議会改革は事務局の強化が必要！

(田口勝) 「議会改革のポイントの中に、住民に直結する対応を組み入れるべきだ。住民代表としての議会が、予算修正、制度改正について、住民の意思を反映すること。議会は住民の声を踏まえ



(沢田) 現在の仙北市議会を大きく変えるには、議員各位が姿勢を正すことはもちろんだが、議会事務局職員の協力なくして目標到達は出来っこない。議会と事務局が一体

となって改革の道は開けると思う。



(田口喜) 議会事務局職員の人事は、当局判断に頼ることなく、議会の意思統一が必要だ。

栗山町は議会事務局長と議長との協議の中で、議会改革を進めている。法的な整備などは事務局職員の調査研究が基になっている。

(黒沢) 栗山町の基本条例をみると議会側の質問に対して、当局が逆質問できる反問権を与えている。仮に仙北市で同様の対応となると議員は猛烈に勉強しなければならぬ。会派代表質問にあっても会派の十分な打ち合わせや勉強会、政務調査等が必要になる。

(青柳) 今までは議員個人の考えをあたかも住民

全体の声であるように発言する議員もいたが、会派や議会全体が確認した上で、当局と議論するようにならなければならない。議会の意思が住民と

果たして担えるか重要な機関！

(田口勝) 「首長は独りだから、リーダーシップに適しているが、一方議会は24人で価値観の違う議員の合議制の機関である。先ほどから話されている住民の多様な意見をくみ上げ、論点をあらゆる角度から討議できる。地域の経営を担うに議会は適している。しかし重要な機関である議会がその責任を担えるかどうか

(田口喜) その役割をになうには議会運営の抜本的な改革が必要と思う。自治法138条の2に、議会は重要な役割を担う権限をもっているというたわれている。



かけ離れていては住民の信頼は得られない。選挙向けの話で議論しないように、議員は責任ある対応をすべきだ。

(沢田) 議員や会派による言いっぱなしでなく、議員相互間の自由討議を促進する新しい議会運営をルール化したのが栗山町の基本条例だと思ふ。仙北市議会も同様の考えで、新しい議会運営をめざすため議員が一致して仙北市議会基本条例を制定すべきだ。

(田口勝) 先の議会で、「公の施設の指定管理」で、選定委員を公表できないとした当局答弁を許した議会の対応は、重要機関である議会の責任放棄だ。

(青柳) 住民のいろんな意見を持ち寄って、議員同士でそれを論議し、調整しなければならぬ。そしてそれを決定して、執行機関に執行させ、監視することになるが、これまでその役割は果たしていないと思う。首長の提案を単に「承認する機関」となっていないか。

(黒沢) どちらかという議会が首長任せが大半に思ふ。議会としての統一された意思による結論も少なく、議員個人や会派ごとの応えになつてい

る。残念ながら議会全体の取り組みや応えになつていない。これが議会の弱さである。

(沢田) 議員や会派による言いっぱなしでなく、議員相互間の自由討議を促進する新しい議会運営をルール化したのが栗山町の基本条例だと思ふ。仙北市議会も同様の考えで、新しい議会運営をめざすため議員が一致して仙北市議会基本条例を制定すべきだ。

(田口勝) 先の議会で、「公の施設の指定管理」で、選定委員を公表できないとした当局答弁を許した議会の対応は、重要機関である議会の責任放棄だ。

議員みんなで反省し、住民のためになる地域経営の担い手として努力しよう。本日は貴重なお話をありがとうございました。



指定管理者制度のあり方に 議論伯仲！

門脇市長が初の定例議会に提案した案件は、条例関係2件、補正予算関係12件、指定管理者関係3件の計17件である。

条例の一部改正は集落排水施設条例2件であり、公の施設の指定管理者の指定は田沢湖サービスセンターと市民浴場、外町交流広場の3件である。また一般会計補正予算は1億9,074万3千円の追加補正である。

特別会計予算の補正は、集中管理、下水道事業、集落排水と国保特別会計、病院事業会計、水道事業会計など全部で10事業会計の補正予算である。陳情は9件で、雇用、年金、後期高齢者医療に係る陳情等が多かった

■条例改正

田沢地区の集落排水事業の完了に伴う条例の整理で、施設の名称や使用料と受益者分担金について一部を改正したものである。特に質疑はなかったが、討論・採決で「受益者分担金の減免や緩和」の意見が出た。原案通り決まった。

■公の施設の指定管理者指定

田沢湖デイサービスセンターの指定管理者となる団体は、社会福祉法人仙北市社会福祉協議会（会長佐藤清雄）である。



指定管理者指定を議決した
田沢湖デイサービスセンター

ある。アロマの組織体制（J.R.東日本の意思表示）と代表者（石黒直次）の交替が済んでいないこと。

管理料1,200万円については、3年前にも質疑が交わされ、アロマが仙北市へ支払う返済金5,000万円（年500万分割）を上乗せした指定管理料との疑義が話題となった。

教育民生委員会では「指定管理者制度の主旨にそぐわない」と第三セクターアロマの指定管理指定議案を否決した。しかし本会議では「効率的

な運営を要望する」として原案可決となった。以前の木質バイオマス同様に、本会議の議案質疑を経て委員会に付託され、慎重審議の結果得た結論が本会議で再び否定された。仙北市議会の常任委員会制度そのものが問われている。

■財政調整基金に2億7千万円を繰入れ！

■一般会計補正予算

歳入歳出1億9,074万3千円を追加補正。歳入の主なものは、地方交付税が3億2,091万円。国庫支出金が5,

667万円。県支出金は1,643万円である。繰入金金は2億7千万円を減額し、財政調整基金に戻し入れた。12月末の基金残高は、13億579万円となる見込み。財産収入1,520万円は学校林（角館中、神代中）の売払いと角館バイパスの土地売払の収入である。

市債2,200万円は1,700万円が土木債で、450万円が災害復旧債である。歳出は議会費が議員報酬等548万円減額された。総務費でも職員給与費2,653万円を減額。来春の市議会議員選挙費として、133万9千円が追加補正された。民生費では老人福祉費から介護保険特別会計に956万円が繰出された。医療給付費2,438万円は乳幼児や障害者への給付。児童措置費2,443万円減額されたが、これは今、話題となっている国の施策が中止されたもの。

衛生費では病院事業会計補助金として5,000万円が措置された。質疑では角館病院には交付税見込み額が措置され、田沢湖病院になぜ措置されないかとの質問があった。労働費に緊急雇用助成金225万円が措置された。仙北市単独事業に対する雇用助成金である。農林水産業費では、花葉館施設整備事業費580万円が措置されたが、備品（レジスタ）購入費である。土木費では雪解け後の道路維持補修費として500万円。地方道路整備臨時交付金事業費6,500万円、山鼻用水と大橋川の流雪溝整備工事。消防費では災害対策費が948万円補正された。防災情報通信設備整備事業に充てる。教育費では学校林の売払い収入で、施設整備事業の費用を賄う。角館中が机・椅子、冷房の整備に充てる。神代中はカーテン、投光機、冷房等の設備に充てる。

■病院事業会計補正予算

市立角館病院の補正予

定額の収入は5,150万円、5,000万円は一般会計からの繰入金、150万円は事業収益である。

支出の医業費用4,286万円の内訳は旅費・交通費、修繕費、委託料等の経費と医師確保施策の研修費3,120万円、資産減耗費100万円である。資本的支出の建設改良費863万円は器械備品等購入費で眼底カメラ、セントラルモニター、CT・MRI接続機器、大腸がん検診プリンターの購入費である。



指定管理者問題で議論になった「東風の湯」



5000万円の繰り入れ金が論じられた市立角館総合病院

20年度決算！

「質素節約」の石黒市長に代わって、「8つの約束」を掲げて門脇新市長が仙北市の財政運営にあたることになった。

平成20年度一般会計決算等は石黒市政の決算である。

歳入総額から歳出総額を差し引いた残額は、4億678万5千円の黒字決算である。しかし単年度収支は5,207万5千円の赤字決算である。実質単年度収支額も1億

2,828万5千円の赤字である。結果的に財政調整基金に依存する決算結果となった。

審査では「財政構造の硬直化」や「財政力指数」など仙北市の懐具合について数値を重んじた審査となった。その結果、石黒前市長の節約に関わらず、仙北市の財政運営は依然として厳しく、いっそうの財政健全化施策が求められるという審査結果が出た。

■議案に対する主な質疑

議案第125号 平成21年度一般会計補正予算

高久昭二議員の質疑は、小規模修理等の発注は地元業者の雇用を考えるべきだ。佐々木章議員は財政調整基金のあり方について市長の考えを質した。

沢田信男議員は森林整備地域活動支援交付金事業の調査状況を質問した。

議案第130号 平成21年度国民健康保険特別会

自主財源である市民が納めた市税は、28億4,316万円と少なく、歳入総額のわずか15%である。国の地方交付税は45%を占めるなど依存財源に頼っている財政状態は変わらない。また財政調整基金の繰り入れで平成20年度も賄ってきた。常に財政調整基金残高を意識しながらの財政運営である。

今日の経済不況、国の財政危機等を考えると現段階で急な税収の伸びや地方交付税の伸びは考え

計補正予算

高久昭二議員は医療費の減免や資格証明書問題を今回も取り上げた。

議案第134号 病院事業会計補正予算

高久昭二議員と田口喜義議員が質疑をした。田口議員は角館病院への交付金措置(5千万円)の内容と田沢湖病院への交付がない理由について質した。

議案第137号と138号 公の施設の指定管理者の指定について

青柳宗五郎議員、高久昭二議員、田口勝次議員が質疑した。青柳議員は第三セクターアロマが管理団体になっている東風の湯の経営内容について質した。田口勝次議員の質疑は外町交流広場について、指定管理の必要性や今後の計画等について質疑した。

指定管理が第三セクター等仙北市の事業に関わっている事業者に安易に選定されていることに疑義が示された。

られない。

かといって収入を増やす有効な手段は市長が交替しても見当たらない。

歳入は全くの行き詰まり状態といえる。その中で20年度収入未済額の4億4,500万円について、税の公平さからも税率向上に全職員一丸となつて取り組む必要がある。現年度分1億2,000万円、過年度滞納繰越分が3億円を超えている。市役所職員が一丸となつて取り組むべき課題だ。

未利用の市有財産の売却や有効活用も急を要する課題である。一般財源を新たに確保する有効手段は中々見つからないが、常に心がけなければならないといえる。

歳入がダメなら歳出の削減をとということになるが、これにも限界がある。しかしながら取組まなければならない項目がある。

「人件費」「建設事業費」「物件費」などの削減の他に、事業の委託料や補助金の徹底的見直しは常に心がける必要がある。

一般質問

2日間にわたって行なわれた一般質問は、門脇市長にとって初めてのことで、慎重にしかも丁寧な答弁に終始した。

質問に登壇した議員各位も新市長に対する質問だけに、従来とやや違った雰囲気一般質問が行われた。新市長の対応ぶりを心配してか傍聴に訪れた人もいた。

市長の公約いわゆるマニフェストについて、佐藤議員、田口（勝）議員が、高校問題は小林議員。内陸線問題は門脇議員が質問。農林業問題をとり上げたのは平岡議員。藤原議員は環境問題を安藤議員がまちづくりの推進体制。大石議員は観光と農業の振興について、佐々木議員は医療再生について質問に立った。

所得アップの具体策は 多分野の課題に取りくむ



佐藤直樹

質問 市長選挙時の公約の中にある「4年間で所得を10パーセント以上増やす」という

答弁 総合産業研究所それぞれの分野で仙北市が今後発展するための基本的

な調査及び実証・検証を行う施設と考えている。

行う具体的な業務として、農林業においては、地域に合った作目の選定の研究、栽培技術の確立の研究等。

食品加工産業の育成、新しい商品作りの研究、生産物や商品の流通形態の研究等。

観光面では、観光資源の他の分野との連携による商品作りの経済的効果の研究等を考えている。

ことに関しては、市民にとって期待が大きい反面、本当に出来るのかとの思いもあるが、中心的な役割を果たすであろう「総合産業研究所」の新設について、その内容、役割についてを問う。

答弁 総合産業研究所については、それぞれ



白岩地区のサポートセンターになるか（集落センター）

多分野にわたる研究を行うことで職員数は今後の検討課題ではあるが、新年度には開設したいの思いでいる。

質問 市民分権の考え方について、市内を昭和の合併前の9つの地域に対し「地域運営体」を立ち上げ、地域の産業育成、福祉問題、安全対策等を行うとあるが、その考え方と具体的な内容についてを問う。

答弁 それぞれの地域の協働する地域運営体を組織し、想定する機能としては、行政サービスの窓口や心配ごとの解決、防災センターの役割、地域の各種団体の事務的役割、カルチャースン

ター的役割等である。

質問 行財政改革に関して、現在の分庁舎方式に対する考え方と、新庁舎建設に関する方向性は。

答弁 分庁舎方式は非効率と考えている。新庁舎建設に関して、今日まで内部で検討

されてきた内容にまだ不足する部分があると判断し、一旦凍結し、今後は市民にとってどのような機能が市役所には必要なのかを議論し、「市役所は市民のもの」という考えのもと方向付けをして行きたい。

高校統合問題のスタンスは 仙北市として方向づけする



小林幸悦

質問 県立高校2校の存続の見通しと今後の取り組みについて伺う。

市長はマニフェストの中で、高校の再編は広く市民から意見を聞き、有るべき姿を探り、教育委員会と共に1年以内で判断を下すと言われている。この問題は合併前の角館町議会でも県の教育委員会に統合存続の願

いしている。また合併後の仙北市議会でも2校の並列存続を実現する会からの要望書が提出され特別委員会が設置され結論として、仙北市にふさわしい高校教育の体系を新たに、構築すべきであるとの報告がされている。仙北市の首長となった今、この問題にどんなスタンスで望むのか考えを伺いたい。

答弁 県立高校2校の存続の見通しと今後の取り組みについてであるが現在県には第5次秋田県高等学校総合整備計画があり、計画期間は（平成13年度～平成22年度）までの10年間となつて

いる) 来年度終了し、現在第6次の総合計画整備の素案づくりが行われていると聞いている。私は仙北市議会特別委員会の答申があるように、一刻も早く、県教育長と仙北市教育委員会はテーブルについて将来に向けたあべき学校像を検討すべきだと考えている。市民の声を聞く市民会議、また県教育長との意見交換会など議論を深め、早ければ来年6月ぐらいまでには仙北市としての方向付けを固めたいと考えている。

質問 岩瀬・北野線の未開通部分(横町小館)について伺う。現在未着工となっている

質問 雇用拡大の補正予算や、地域雇用創造推進事業に期待はするが、年明けの仕事が全

るこの区間が完成してその利便性が発揮されるものであり、基礎調査的なものは終わっていると思うが、その概略と今後の事業着手の見通しを問う。

答弁 都市計画道路岩瀬小野線の未開通部分の質問だが、平成20年度路線選定業務を実施し、その結果、お寺、墓地、桜等への影響が懸念されていたが、影響がないようなコントロールが可能と思っている。路線詳細測量等については現在検討中である。

質問 雇用拡大の補正予算や、地域雇用創造推進事業に期待はするが、年明けの仕事が全



6月までに方向づけをする高校統合問題(角館高校入口)

質問 仙北市の緊急課題である病院問題について、田沢湖病院の救急再開に向かってどのように進めるか。また大曲・仙北組合病院の移転

答弁 陳情や要望について市長会で取りまとめ国や県に要望書を提出している。民主党政権になり、この仕組みは変わったが、直接要望活動のできるものは積極的に進めたい。

質問 新市長の国や県への陳情、要望活動の基本的な考え方について伺う。



門脇健郎

市民の声になぜ応えない！ 要望活動は積極的に進める

く見えないという声が続く。地元業者がもつと仕事が出来るとは思えない。事期間等に十分留意しながら地元業者の方々が受注できるように体制づくりを努めてまいりたい。

答弁 工事の発注については、時期や工事期間等に十分留意しながら地元業者の方々が受注できるように体制づくりを努めてまいりたい。

改築ならびに角館病院の改築をどう考えているか。

答弁 病院問題の解決は私に課せられたものと考える。問題点は医師不足で診療ニーズに

報酬の関係で経営そのものが苦しいこと。老朽化した角館病院の移転改築問題。組合病院との圏域医療連携等の課題がある。医師不足の解消は厳しいが最大限努力する。現在経営の効率化に取り組んでいるが、形態について検討したい。おたずねの医療再生基金については答弁できる情報が少ない。

質問 木質バイオマスの運営についてだが、チップの資材業者は採算が取れるか。

答弁 給については業者とすでに合意している。

質問 内陸線の存続についてどのように進める考えか。また公有民営化方式、職員の内陸線通勤、生徒児童の通学、支援団体に対する対応、広域観光振興に対する位置づけなどそれぞれの考えを聞きたい。

答弁 経常損失2億5千万円の財政負担が問題だ。

県は内陸地域の活性化と地域公共交通の確保について国の支援事業で対応する考えだ。公有民営化は鉄道経営の手法と考

有効な施策と考えるが踏みこむ材料がない。通学については下校時間等検討する必要がある。サポーターは元気がだが、地元民の熱意が薄い。今後検討すべき課題である。内陸線は県内にとどまる公共交通機関とは考えていない。沿線観光については地域資源を活かし、鉄道経営収入と営業外収入の2つの取り組みを今後提案する。

質問 農業と観光の連携をどのように進めるか。

答弁 国際化という流れの中で農業を経済面から考えていきたい。観光と結び付けるには教育体験学習など体験型観光に力を入れたい。

質問 市民の雇用を創出するにはハード事業を進めるべきと考えるがどうか。

答弁 雇用については危機感を覚える。公共事業の削減で建設業の停滞は続く。

雇用対策として、発注件数や小規模事業の対応、測量業務の助手等を



存続に変更になりつつある内陸線

考えている。事業の発注が市民所得アップにつながる。市税納入となり、本と考える。

門脇カラーとは何？ 「とにかくやってみよう」である



田口勝次

質問 門脇市政の基本

仙北市は行政の課題が山積している。議会もこの4年間石黒市長と議論を交わしてきたが、基本部分でかみ合わない点が多々あった。

市民や議会は石黒市政と門脇市政を比較することになる。石黒市政と決定的に違う点は何か。

答弁 私は走りながら考える。行政運営にスピードや瞬発力をもつてあたりたい。

質問 門脇市長は議会との関係をどのよう

次の事業発注に結びつくことから、財政運営の基

答弁 執行部と議会は市民ニーズを基に徹底した議論によって結果を求め

多様な意見をもって。市民代表である議会の議論は大事にしたいと私は考えている。

質問 仙北市の課題について認識に

があつては議論にならない。市長の考える課題とは何か、また優先して取り組む課題は何か。

答弁 最も大事な命を守る立場で福祉をつくることと市民所得の向上を最優先課題ととらえている。

質問 マニフェストにある次の点について質問する。

市民所得を10%アップするとう公約だが、仙北市の場合、特に農業の所得向上は短期間での達成はかなりむずかしい。

農外所得でカバーする対策が必要と思う。

答弁 市民一人当たり

の所得が172万円。基になる生産額は540億円である。この10%54億円を創出しなければならぬ。あらゆる

方策を講じて取り組む考えであるが、農業は助成制度の拡充や経営指導が必要だ。観光については観光客の落ち込みを立て直すことが必要だ。観光収入などそれぞれの取り組みを整理しながら新たな

質問 市立角館総合病院の改築について

建築年度、場所、費用など具体的な内容について伺う。

質問 マスタープラン作成中で現段階ではまだ未確定だ。言えることは「240床の病院を70億円の予算で」ということである。

質問 門脇市長は分庁舎方式については非効率的と判断している。マニフェストは「凍結」だ。

建設位置、建設時期、建設予算等について基本的考えを聞きたい。3分の2の議決についてどのよう

に考える。

質問 ご質問の件について現在

は全くの白紙である。3分の2の議決については極めて重

国がFTAを受けたら… 農業振興が損なわれないよう求める



平岡 均

質問 FTA（自由貿易協定）を結ぶこ

とは、農業分野における構造改革、市場開放など避けて通れない問題と言われている。

法律化されると市としても平成22年度の減反面積の割当て、転作作物に対する交付金はどうなるのか、仮になくなると農家や集落営農組織に与える影響は大きいものがある。国がFTAを受けた場合、市の考え方について伺う。

答弁 FTAが締結されると安価な農産物が日本市場に入ってくる。

米や肉、乳製品、野菜など価格の下落が予想されるので農業団体等は反対運動の決議を行って

仙北市議会でも食と水と緑を守るために重点品目を除外すると共に、万

一受け入れられない場合は交渉を中断することを求めている。

平成21年11月秋田県農業委員大会で食糧自給率向上、国内の農村の進歩を損なわれないなどの決議がされている。

市としては農業農村の振興が損なわれないよう国に求めている。

質問 農業と教育の相

対関係について。都会から体験学習として農村に農業実習にやってくる。

田植えを始め、草取り稲刈など一貫して来る学校もある。都会の子供達が泥まみれになって農作業をやっている姿を見て

いる地元の子供達はどのように感じているか農家の子供達が農作業を手伝わない傾向にあるとすれば残念でならない。大切なのは農家の後継者問題に繋がってくる。子供達



田口議員の一般質問に答える門脇市長

が農作業を通して自然の営み知る取り組みについて伺う。

答弁 農作業をする子供達は全ての感覚機能を使い実践的な学習方法を身につけ、生命の尊さと自然の偉大さ、勤労の尊さやたくましい心身を育てる農業の教育効果は高いものと考えます。

このまま10年もしたら農村農業は大変なことになるという話は同感である。市ではグリーンツーリズムを展開しており、この政策を進めることが農業や農村が再生に繋がると思う。

質問 新型インフルエンザの最新情報と対策について伺う。

農業所得の向上策は販売先と直結する取り組み



藤原 万正

質問 耕作放棄による荒廃田が年々増加

答弁 対策として1月5日より2回目の集団接種を行っており、最近の発生状況は減少傾向にある。

引き続き手洗い、うがい、マスクなど予防の徹底をお願いする。



新型インフルエンザの説明に聞き入る小学生（神代地区）

傾向にある。農林畜産の収益性を高める市独自の支援制度創設の基本姿勢について伺いたい。また、その中で耕作放棄地解消に向けての対策はどう考えているのか伺いたい。

答弁 水田フル活用という事で米粉用米

や飼料用米、野菜等の作付けによる生産額の拡大を図るための販売先と直結する組織作り、担い手による効率的な生産、生産資材の効率的な利用を通じて生産コスト低減を図ることが必要と思っております。

国と県の補助事業等を取り入れながら、機械化による多品目生産が可能となるよう、多様化のニーズに対応できる生産体制の確立と合わせて加工業の指導体制も考えていきたい。耕作放棄地解消に向けて、食糧自給率向上に向けて、土地所有者との調整を図りながら、解消活動に積極的に取り組んでまいりたい。

質問 市民がどんな思いをしているのか、何を求めているのか、いつまでも市民の声を聞き、市民の幸福を絶えず追究し、よりよい社会へと現実を変革していく、これが市の一貫した姿勢でなければならぬ。そのためにも地域会議を立ち上げるべきと思うが。

答弁 協働のまちづくりを進める市民分権を目

指したマニフェストの中で、地域運営体の設置と行うことで考えている。市内9エリアで自治組織を作って、市民自らが主体者になる市民分権、市民サポートの役割を担っていただきたいと考えている。

質問 県は今、第2次廃棄物処理計画を策定している。その計画に基づきゴミを出す側も環境保全を自らの問題と受け止め、発生の抑制への努力する意識の高揚を図るべきと思う。市側の取り組み姿勢について伺いたい。

答弁 ゴミの減量は市民の方々の意識が何よりも大切と考えている。実際に仙北市での総ゴミ量は減少傾向の状況で、市民の方々の御協力のおかげであり、環境に対する住民の意識付けがその後のゴミ減量化の大きなエネルギーになっていると思う。これまでのゴミ減量化のように取組みに加えて、地球温暖化防止対策の面からも更に啓蒙活動を進めてまいりたい。

質問 県では環境あきた県民塾を開催、受講修了者はエコマイスターとして登録、環境リーダーとして環境保全活動に活躍しているが、仙北市には3名しかない。当市でも環境リーダーの育成や環境に対する意識の高揚を図ってほしい。

答弁 県民塾を市で開催するには、県に登録している関係団体があれば可能だと伺っている。仙北市にはそうした団体がまだ無いので、開催するにはどうするか、もう少し研究させて

地域経済の基盤づくりは総合産業研究所を稼働する



安藤 武

質問 昔、地域は強力な指導者の下、集団的問題解決の方法が取られ、助け合う精神が生

いたいただきたい。



ゴミの減少傾向が続く西木地区の最終処分場

まれていた。

今、急激な社会変動時代に生きる市民は、生きる力の心の教育が課題であると言われている。

生涯学習の観点に立ち、多様な学習の機会を展開することが、市長の言う市民協働のまちづくりの原点と思うが、どうお考えか伺います。

答弁 地域づくりと人妻を感じる体制が十分でなく、若年転出した若者が、老後故郷に帰り、生活したくなる高齢者に優しいまちづくりが、市長が目指す市民協働と思うが、その取組みについて伺う。

今後市民サポートセンターを中心に公民館利用体制を整備し、進めたい。

質問 地域経済基盤づくりは、農業振興になる。担い手を育成し、農業を安定し地域活性化につなげる。

そのため担い手に希望を与えるため職員の役割と農家の意識改革が必要と思うが、市長の考えを伺う。

答弁 地域経済基盤づくりは、農地集約、大規模化、食品加工業、観光業と連携強化、産業全体の良質な労働をめざす。

更に、農産物のブランド化をめざし行政のコーディネートが必要である。総合産業研究所を稼働したい。

質問 神代地域は診療所（伊藤先生）の医療、デイサービスセンター、民間施設等福祉は充実している。

ただ高齢者自ら生き甲斐を感じる体制が十分でなく、若年転出した若者が、老後故郷に帰り、生活したくなる高齢者に優しいまちづくりが、市長が目指す市民協働と思うが、その取組みについて伺う。

答弁 福祉と生きがづくりについて、第4期仙北市高齢者福祉計画をまとめ、基本理念、安心して暮らせる環境づくりの為、40の基本項目を挙げ高齢者社会参加、高齢者が支え合う友愛活動、安否確認、訪問活動に取り組む。

相談相手、話し相手のいない高齢者の孤立を防ぎ、健康で働く意欲ある高齢者にシルバー人材センターを通じ、就労支援を実施していきたい。



高齢者にやさしいまちづくりの条件となる医療施設（神代診療所）

仙北市のめざす農業は！ あらゆる方策を考えたい



大石 温基

質問 私の一般質問は仙北市の目指す農業とゴミの収集、観光と農業の結びつきについて市長の考えを伺うものである。

ゴミの収集であるが、最近では不法投棄や野焼きが減っている。これは行政の対応が市民に、徐々に行き届いてきているからだ。しかしまだ農業用

う。私は産地間競争に勝てる農業にするには、全国一律の農政では勝つことが難しいと考える。適地適作の農業政策が必要と思うがどうか。また技術指導や販売先の確保あるいは市場の情報収集など、行政が農家を引っ張る農政を展開できないか伺いたい。

質問 観光と農業の結びつきについて伺う。
観光客の入りこみ数は落ち込んでいるが、仙北市はまだ恵まれている。ホテルや食堂の食材の地元産利用について市長はどのように考えているか。

答弁 指摘の通り、地域に見合う農業政策は欠かせないと考えている。あらゆる方策を考えたい。また流通や市場の開拓ができる専門知識のある人達の協力も必要である。私のトップセールスで可能性を掘り起こしたい。

答弁 観光については市民全体で取組むべきと考えている。「食」の提供は、安全で安心な食事であればならない。

質問 市として「めざす農業」をしっかりと定めるべきでないか。その場合、県やJA、市が一体となって、熱意を持って対応することが必要であり、行政が力ギを握ると思うがどうか。

質問 観光客の動態は、安い料金設定であり、安い商品を求める傾向にある。生産者もコスト削減で安く作ることを考えている。
食べる人はさらに安いものになる可能性が高い。

答弁 目標に向かって進む態勢をあらたに構築したい。今後新しい体制で新しい事業に取組みたいと考える。

答弁 最近、官の技術指導力が下がってきている。技術指導を強

このような状況下の対応をどのようにするか。

最近、官の技術指導力が下がってきている。技術指導を強

化したい。
また情報発信に努める
とともに、施設整備にも
力点を置いて取り組ま
たい。



民間で運営している
環境保全センター

医師確保の具体策は？ テナントドクターズ制度を創設



佐々木 章

質問 医師確保につ
いては、引き続き
厳しい状況が続くと見込
まれている。市長自ら、

質問 医師の確保につ
いては、引き続き
厳しい状況が続くと見込
まれている。市長自ら、

質問 医師の確保につ
いては、引き続き
厳しい状況が続くと見込
まれている。市長自ら、

常勤医師確保が必須条件
だと思っている。田沢湖
病院は現在、障害者病棟
を実施して救急医療
にかかる全ての入院患者
を受け入れが困難な状況
であるので、地域の基幹
病院でバックベットの確
実な受け入れ同意も必要
と思っている。

質問 角館総合病院の
改築の方向性が、
昨日の一般質問でも出た
が、地方医療再生の特別
交付金100億円が25億
円になったようだ。事業
化に向けてどのように整
理していくのか。

質問 角館総合病院は
老朽化が著しく、
改築が避けて通れない状
況と認識している。想定
する規模は240床前後
を基本に検討したい。建
設場所は白紙だが、一日
1,000人前後の皆さま
が訪れる病院であるの
でまちづくりの視点から
も検討したい。地域医療
再生交付金については
100億円から25億円に
圧縮された。

質問 観光客入込数を
600万人まで復
活させるということだ
が、具体的施策は何か。
観光産業拠点特別区への
予算投下の具体的内容に
ついて聞きたい。

質問 各種観光キャン
ペーン、キャラバ
ン隊の開業やイベント等
へ積極的に参画する。パ
ンフレットの充実、メ
ディア旅行雑誌等への売
り込みなどと共に滞在型
メニューを充実させるた
め、温泉に健康をプラス
した商品開発をしていき
たい。

質問 観光客入込数を
600万人まで復
活させるということだ
が、具体的施策は何か。
観光産業拠点特別区への
予算投下の具体的内容に
ついて聞きたい。

質問 各種観光キャン
ペーン、キャラバ
ン隊の開業やイベント等
へ積極的に参画する。パ
ンフレットの充実、メ
ディア旅行雑誌等への売
り込みなどと共に滞在型
メニューを充実させるた
め、温泉に健康をプラス
した商品開発をしていき
たい。

質問 観光客入込数を
600万人まで復
活させるということだ
が、具体的施策は何か。
観光産業拠点特別区への
予算投下の具体的内容に
ついて聞きたい。

質問 観光客入込数を
600万人まで復
活させるということだ
が、具体的施策は何か。
観光産業拠点特別区への
予算投下の具体的内容に
ついて聞きたい。

質問 観光客入込数を
600万人まで復
活させるということだ
が、具体的施策は何か。
観光産業拠点特別区への
予算投下の具体的内容に
ついて聞きたい。



改築がさけて通れない
市立角館総合病院

職員の議会運営に対する介入に 関する調査特別委員会

議会議長より前号（16
号）発行後、調査特別委
員会は産業建設常任委員
長と、産業観光部長から
2回にわたって証言を得
た。

その後委員全員による
協議を行い、本特別委員
会では産業建設委員会
の結論（否決）が本会議
において逆転（可決）し
たという事実背景から、
問題とされる産業観光部
長の発言が、産業建設委
員長の辞任を決議させる
契機となったと受け取ら
れてもやむを得ないもの
であると判断。

市政の中枢を担う幹部
の発言が、産業建設委
員長の辞任を決議させる
契機となったと受け取ら
れてもやむを得ないもの
であると判断。

常任委員会

総務常任委員会

■一般会計補正予算 〔歳入、諸収入、雑入〕

問 地域活性化センター助成金で申請したが、採択にならず、減額になったというが理由はなにか。

答 さくらサミットを開催するという事で、一般財源で予算計上していた。その後、活性化センター助成金事業で、対象になる事業である、という事で「活力ある地域づくり支援事業」に申請した。採択になれば、財源は一般から特定へ振り替えて行う事にしてはいたが、採択にならなかった。当初の予算どおり、一般財源で実施した。



〔財産収入、立木売り払い収入学校林〕

問 立木売り払い収入で他にも学校林がまだあるものか、また、切つてあとは終わりとなるのか。

答 今回は60年満期を迎えたもので、森林管理署から入札によって公売を行った旨の通知があった。使途については、小、中学校の施設整備にあて

る。今後、営林署と契約するか、しないかを含め順次聞く必要がある。

〔歳入全般について〕

問 6月補正、9月補正と経済対策を実施してきている。現時点で不用額はどれくらいか、新たな経済対策事業ができないか。

答 6月追加補正で、経済危機対策臨時交付金は、現段階で6億8,600万に対して、事業費が5億6,400万程度で、1億2,000万の受け差がある。公金充当についても2,000万位の差がある。今後の事業については、内容を精査して行いたい。

陳情

◎日米地位協定に関わる「裁判権放棄の日米密約」

◎賛成多数で、採択と決定した。

◎改正賃金業法の早期完全施行を求める陳情
◎慎重審査の結果、採択と決定した。

産業建設常任委員会

◎仙北市集落排水施設条例(田沢地区)の一部改正と受益者分担金条例の一部改正の制定について

問 受益戸数221戸に対する加入目標が30%では、事業効果は少ない。加入促進に努めるべきではないか。

答 田沢地区の高齢者世帯も多く当初の目標より低く設定したが、戸別訪問等で加入促進に努める。

問 加入促進のためには分担金10万円は大き過ぎる。利用者は分担金の他、トイレの改修費など負担が大きいので非課税世帯は7万円に減額、使用料も3年間無料にするなどの措置はできないか。

答 分担金や使用料の猶予や免除は、他の地域とのバランス、公平感、税の投入など公平性を鑑み今は考えていない。

◎水道事業会計補正予算について
問 田沢地区、簡易水道事業の石綿管更新事業、減額の理由について。

答 前年度集落排水工事

が行われた場所への工事形状であり、実施が困難となり見送りをした。

問 安全な水を供給するための事業であり一日も早いアスベスト管の更新をすべきではないか。

答 出来るだけ早く更新したい。今後は建設部と連携して事業に取り込む。

◎外町交流広場の指定管理の指定について

問 町内の交流のみならず商店街の賑わいを創出するため、西宮家などとタイアップしながら物販関係など、新企画ができる要件になつていないか。

答 NPO団体がポケットパークと連携させて活用する自由さと多彩さを盛り上げて欲しいとお願している。税を投入している以上あるもの



陳情

◎市道の改良についてのお願い(市道小松山崎線)

◎雇用と生活を守る施策強化を求める。

◎角館町雲然山口地内の私有地払い下げについて
◎市道田中山口線延長拡幅改良工事について
◎堀内黒崎森線側溝改修工事の実施について

教育民生常任委員会

議案第136号「公の施設の指定管理者の指定について」

この議案は、田沢湖デイスタービスセンターの指定管理者を仙北市社会福祉協議会に指定するもので、主な質疑の内容は。

問 募集条件を満たしている団体は市内に6団体あるのに、応募は仙北市社会福祉協議会1団体だけであったが、そのことについては

どのように考えているのか。

答 現在もたざわこデイスタービスセンターは仙北市社会福祉協議会で受託しているの、他の団体は遠慮したのではないのかと推測している。



する場合、その期間が、5年の場合と3年の場合があるが、その違いは何か。

答 指定管理者の取扱い要綱で、専門的なものは5年、一般的な施設管理等は3年となっている。

問 議会に対して指定管理者の指定の提案がされる場合、指定管理者制度の選定会議の内容が非公開にならぬものか。

今後検討してルールを作りたい。
●全会一致原案を可とするものと決定した。

議案第137号「公の施設の指定管理者の指定について」

この議案は、東風の湯の指定管理者をアロマ田沢湖に指定するもの（期間は3年間）で、主な質疑の内容は次の通り。

問 過去3年間、アロマ田沢湖への指定管理者の指定で何かメリットがあったのか。結果を検証しているのか。

答 住民サービスの向上や経費の削減を図る目的で導入され、繰出しも少しは縮減され成果はあったものと考えている。

●アロマ田沢湖の代表が2月に交代するならばその後提案すべきではないのか、この制度の導入による多くのメリットが無ければ、単にアロマ田沢湖への救済の為と捉えられてしまうのでさらなる検討が必要だ、等の意見が出され、採決の結果、賛成少数で、原案を否とすべきものと決定した。

北川元三重県知事に学ぶ

―市議会議員研修会―

恒例となった秋田県市議会議員の研修会は、昨年に続き秋田市の「テレサ」で今年も開催された。

今年の講師は元三重県知事の北川正恭氏（現早稲田大学大学院公共経営研究科教授）だった。

先生は新しい日本をつくる国民会議代表も勤めている。マニフェスト革命やマニフェスト進化論などの著者である。

先生の講演のテーマは「地方分権―生活者起点の地方議会革命」であった。

先生は賢い人といわれる人ほど、固定観念に縛られているかも知れないと、その場を支配する空気にあなただは流されている自分気づくことから改革は始まります。

気づいたことを行動に移さなければ何も始まらない」と語り続けた。

坂本龍馬は薩摩・長州は不倶戴天の敵との固定観念を打ち破り、誰も考

治維新という一大事業となった。

「誰かがやってくれるというのでは何も変わらない。皆さんが先ず羽ばたいてみませんか」と県内の市議会議員に大きな声で強く呼びかけた。

北川先生に「のんきに構えている秋田県は、世の中から取り残されてしまふ」とはつばをかけた。政府が言うとおりにやっていたら済んだ時代は終わった。

「こんな議会じゃない」といわれないよう、議会こそ自治体のエンジンでなければならぬと思っ

た。き起こせば、予期していなかったハリケーンなみのエネルギーに成長することもある。坂本龍馬という一匹の蝶々が羽ばたいたらそれに共鳴して西郷隆盛、勝海舟らがはばいた。次から次へと共鳴者が現れて、大きなハリケーンとなつてついに、明

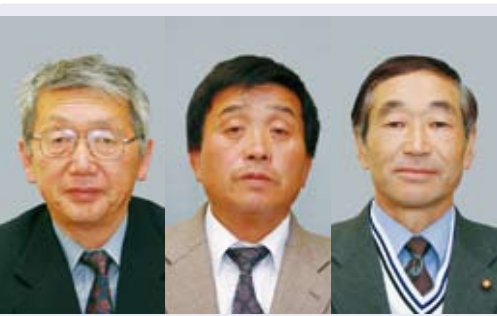


副市長に石山氏

11月30日に臨時市議会が開催され、10月29日に辞職した副市長の後任に石山修氏（63）を選任する議案が提出され、賛成多数で同意となった。任期は12月1日から4年間。



石山副市長は県職員OB、市長が村職員時代に県に出向の時の上司とのこと。抱負を伺いました。



会派紹介 日本共産党仙北市議団

同会派は日本共産党の地方自治理念である「住民が主人公」の精神に基づき、他会派と同時期に結成されました。

合併前、旧三ヶ町村議員が一緒になったため、成り立ち、環境、活動スタイルなどそれぞれ独特のものもあります。

しかし共通して言える

▼仙北市の第一印象は？

着任してすぐに定例議会が開催され、当初予算に関する基本的取り組みの方針にさかのぼって業務対処することとなったため、ずいっと仙北市に住んでいるような感じを強くしている所です。

▼副市長としての決意は

門脇市長のマニフェストの実現に向け、職員と一体となって、その具現化に日夜邁進していく（既に突入してますが）決意です。昭和21年9月5日生まれ、63歳。

教育委員長佐久間氏



任期満了に伴う教育委員の任命案を全会一致で同意した。

市教育委員5名の内2名が11月24日に任期満了により退職、欠員2の内1名のみ提案だった。前教育委員の佐久間氏（65）を任命する事に全会一致で同意す。もう一名の委員任命案は3月定例会に提案との事。それ

までの体制は
委員長 佐久間健一
委員長職務代理者

委員 阿部 哲男
委員 安藤 満里
委員 三浦 陽一

新選挙管理委員を選出

任期満了に伴う選挙管理委員については、市議会における選挙で選出する規定となっていることから、各地区の議員が本人の同意を得て推薦名簿を提出、本会議で指名推薦により委員4名、補充員4名をそれぞれ選出した。新選挙管理委員は次の通り。

佐々木昭雄氏（72）田沢湖
高橋正美氏（60）角館
佐藤透氏（67）西木
藤原儀英氏（65）田沢湖
補充員は
戸澤幸作氏（61）角館
武藤薫氏（69）西木
千葉継太郎氏（61）田沢湖
菅原操氏（67）角館。



行政と市民のパイプ役

民とのパイプ役として、また、相談活動を活発化し、より開かれた仙北市役所として、市民に役立つ組織となるよう努力し

わせ、意見交換を行い意思統一に努めてきました。上級機関（県委員会）の自治学習会にも出席

し、勉強しています。今春予定の改選に向け、更に市民にお役に立つよう、益々努力し、市民の良き相談相手となり、自己啓発に努めたいと思います。

また、議会では他会派と一致点を見いだし、協働し議案、予算等対応していきます。

編集後記

暮れの12月25日、改築中の神代小学校の竣工式が行われた。

新築の校舎は廊下がこれまで倍くらい広く、明るい。二階の明かり採り屋根からの自然光が一階の廊下まで届く設計だ。鉄筋コンクリート造りだが、内装に木材をふんだんに使い木造建築のような暖かみのある学校だ。

この竣工式には地元の方や工事関係者など多くの人が出席し、議会からもほとんどの議員が出席した。

議会を代表して佐藤議長は「地域の方々の要望が詰まった学校だ。中国の古い諺に『水を飲むときは井戸を掘った人に感謝して飲むべし』というのがある。この学校を作ってくださった方々に感謝して使おう」と祝辞を述べた。

喜び溢れる子供達の姿が目に見え、教育環境整備の効果が出るよう期待したい。